

<教育実践研究>

小学校におけるピア・サポート実践と課題

— 有志児童のピア・サポート活動（紙上相談） —

米嶋美智子, 小林勝年

Peer support practice and the problem in the elementary school

—Peer support activity of the volunteer child

( The newspapers consultation ) —

YONESHIMA Michiko, KOBAYASHI Katsutoshi

キーワード：ピア・サポート, 紙上相談, 小学校

Keywords: Peer support ,The newspapers consultation , Elementary School

1 はじめに

ピア・サポート活動は、イギリスにおけるいじめ問題への対応に端を発する。イギリスでのピア・サポート活動の第一人者が Cowie, Helen である。Cowie, Helen が行ったピア・カウンセリング活動（当初はピア・カウンセリングと呼ばれていた）において「いじめに対して解決に向かうための何らかの手を差し伸べたいという生徒の心を生かせること」、「相談相手になった生徒の心理面・学業面の成長が著しいこと」、「生徒達の間いじめに対する意識や行動が著しいこと」、「生徒達の間人間関係がよくなる」などの成果を生み急速に広まった。

日本における学校教育の中でピア・サポートが本格的に取り入れられるようになったのは、1994年からで当時、金沢大学附属中学校に養護教諭として勤務していた河田史宝が第一人者である。生徒保健委員会の活動としてのピア・カウンセリングの実践を展開し、心の相談室から心の相談箱を利用した「紙上相談」のピア・サポート活動を定着させた。

本校では、1999年11月、児童運営委員会より「いじめのない学校にするために校内に相談箱を設置し、児童の相談にのるメンバーを募りたい」という提案があった。そこで、児童の提案をきっかけに、12月から紙上相談ピア・サポートがスタートした。システムの立ち上げ運用には、戸田有一(元鳥取大学教員、現在大阪教育大学准教授)他が主となって関わっていた。11年を経過した今、立ち上げ当時のPTCC (P:parent T:teacher C:children C:counselor)メンバーが総代わりし、紙上相談をベースとしたピア・サポート活動はしているものの、活動メンバーの役割等がすこしずつ変容している。現在、筆者がかかわって2年になるが、本校のピア・サポート活動の実践をまとめ課題を明らかにしたい。

2 紙上相談ピア・サポート実践の経緯

本校の紙上相談ピア・サポートは、対コミュニティ返答相談であり、相談箱に投函された児童の悩みや相談を有志児童ピア・サポーターとともに考えて、全児童・保護者へ返していこうとする実践である。

1999年度に、全国国立大学附属小学校PTA連合会においてスクールカウンセラーによる教育相談の発表を受け、同じような取り組みを始めたいという提案から、本校ではPTCC委員会が発足する。PTCC委員会では、児童の心のケア（いじめや不登校傾向への対応）のために、保護者・教師・カウンセラー・児童の連携

でサポートしていく活動として、学校組織の中に定着する。ピア・サポート活動は、鳥取大学教官の戸田有一の指導を受けながら、本校の教育相談員と養護教諭が中心に活動をする。

2000年度には、メールや手紙による個人相談や6年生の有志児童による紙上相談ピア・サポート活動が展開され、便り「ちいさな相談」の発行が始まる。

2001年度からは、教育相談員の異動により、鳥取大学大学院教育学研究科の大学院生がPTCC委員会教育相談員を継承し、養護教諭と連携のもとに、6年生有志児童に5年生有志児童が加わったピア・サポート活動(本校での名称C-フレンズ, Children-Friends)を運営する。また、この活動を支援してくれる有志大学生サポーター育成も行う。

2004年度から2008年度においては、PTCC委員会教育相談員の異動により養護教諭が中心となり、有志大学生の協力のもと、ピア・サポート活動をする。

2009年度からは、異動により、筆者である養護教諭が継承し、鳥取大学教官(兼本校のスクールカウンセラー)の指導のもと、有志大学生サポーターとともに活動をしている。

### 3 紙上相談ピア・サポートの実践

#### 1)活動内容

- 児童の紙上相談に、メンバーの多様な回答を準備
  - ・相談回答の掲示
  - ・便り「ちいさな相談」の発行
- ピア・サポート育成のトレーニング
- その他

#### 2)活動日

原則として、木曜日の昼休憩(予備日として、火曜日)

#### 3)活動場所

相談室

#### 4)担当者

- 5・6年生の有志児童
- スクールカウンセラー
- 有志大学生ピア・サポーター(鳥取大学)
- 養護教諭
- 教育相談担当者

#### 5)担当者の役割

内 容	役 割
活動計画立案	養護教諭・スクールカウンセラー
メンバーの連絡係	養護教諭
相談箱・相談用紙等の管理	養護教諭
便り「ちいさな相談」の編集・校正・発行	有志大学生ピア・サポーター・養護教諭・教育相談担当 スクールカウンセラー
相談の回答(掲示用)	養護教諭

実施時期	内 容	役 割
4月	職員会議でピア・サポート活動計画の提案	養護教諭
5月上旬	5・6年生有志児童メンバーの募集	養護教諭
中旬～下旬	ピア・サポート活動のオリエンテーション	養護教諭
	5・6年生有志児童メンバーの決定	養護教諭
6月上旬	活動開始 (毎週木曜日 昼休憩)	スクールカウンセラー・養護教諭
↓	講義「上手なピア・サポートになるために」	有志大学生ピア・サポーター スクールカウンセラー
3月下旬	ピア・サポート育成トレーニング及び紙上相談活動開始	

6) 紙上相談の発行までの流れ

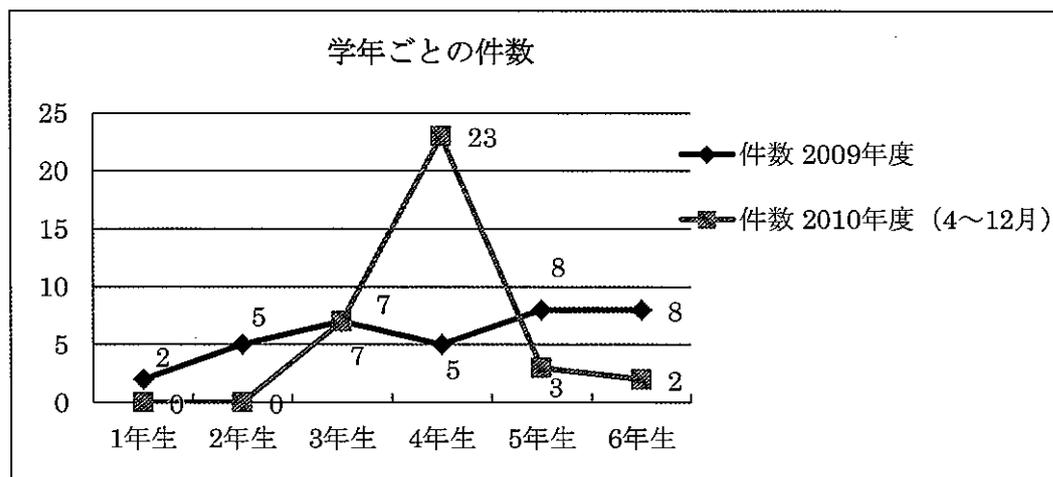
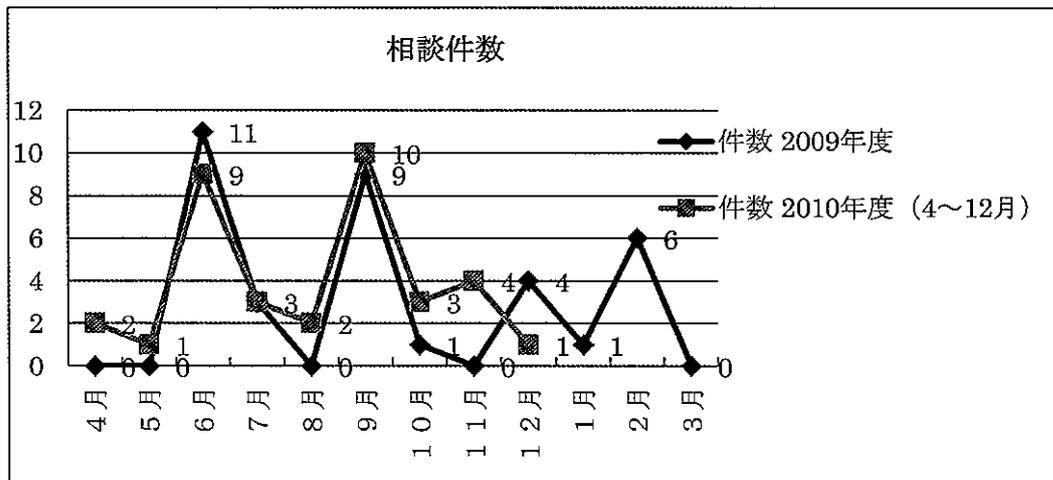
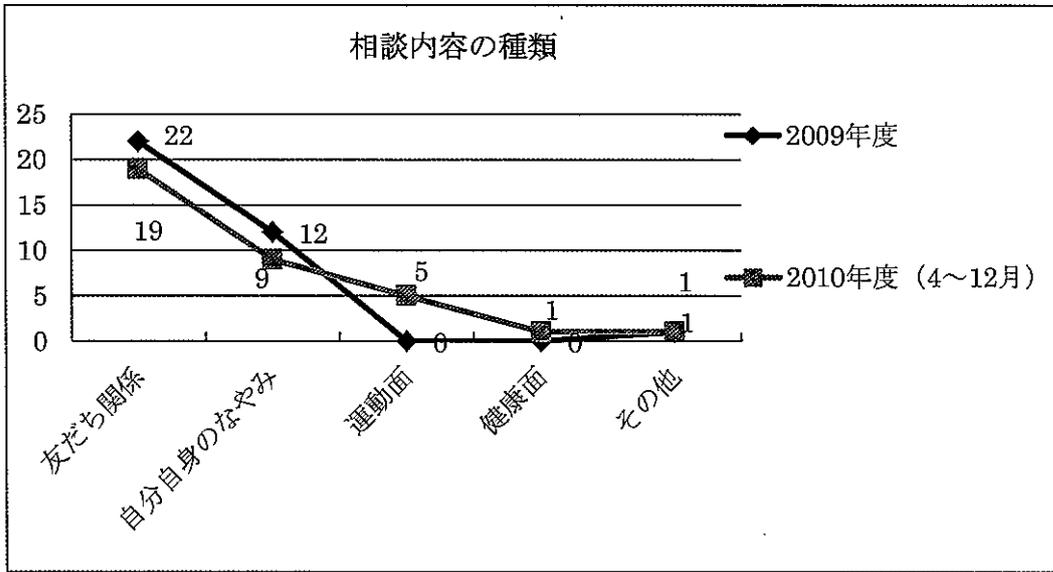
	内 容	役 割
1	相談箱に入った相談を活字にする	養護教諭
2	児童に関係ある学年の担任に相談内容を伝える	養護教諭
3	有志児童ピア・サポート活動日に、相談の回答をメンバーでディスカッションする	スクールカウンセラー 有志大学生ピアサポーター 養護教諭
4	有志児童ピア・サポートへの指導や助言	スクールカウンセラー・養護教諭
5	有志児童ピア・サポートの回答をまとめる 相談室前に回答を掲示する 便りの編集・校正	有志大学生ピアサポーター 養護教諭・スクールカウンセラー 教育相談担当
6	発行 (家庭数)	養護教諭

7) ピア・サポート育成トレーニング

主にスクールカウンセラーがトレーナーとなり実施。

- ・友だちつくりスキル
- ・傾聴スキル
- ・コミュニケーションスキル
- ・問題解決と意思結成スキル
- ・対立解消のプロセスとスキル
- ・守秘義務等

8) 相談箱に投函された紙上相談のまとめ



相 談 内 容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「バカ」, 「アホ」, 「ブス」などいわれる。</li> <li>・自分の友だちがクラスの人から避けられている。</li> <li>・私の友だちが秘密をばらしたことで, けんかになった。仲直りがしたいけどできない。</li> <li>・学習中やバスの中で並んでいるときに, 後ろの人に押される。</li> <li>・恋の相談。</li> <li>・友だちと思っていた人が仲間はずしをする。</li> <li>・私(女子)が男子と仲良くしていると, クラスの女子がひやかす。</li> <li>・掃除時間, ふざける人がいて注意してもやめない。</li> <li>・私のことを先生に告げ口される。</li> <li>・運動会の練習が始まったが, 走るのが苦手で, とても心配だ。</li> <li>・どうしたら運動が上手になるか教えて欲しい。</li> <li>・友だちにじこちゅう(自己中心的)といわれる。</li> <li>・授業中, 発表が苦手で悩んでいる。</li> <li>・気持ち悪いときに, 先生に伝えることができない。</li> <li>・隣の席の人が, 大笑いをしてうるさい。</li> <li>・両親をおこらせてしまう。</li> <li>・約束や予定を忘れてしまう。</li> <li>・がんばっているのにいい点がとれない。</li> <li>・こそこそ悪口をいわれる。</li> <li>・友だちの荷物を持たなかったら, 友だちをやめるといわれる。</li> <li>・私のともだちは, 仲間はずしにあっている。</li> <li>・クラスの人がケンカをうってくる。</li> <li>・ともだちにうらぎられた。もう友だちをやめたほうがいいだろうか。</li> <li>・にらまれたり, 内緒話をされたりする。</li> <li>・友だちが, 遊びのルールを自分かってにかえてくる。</li> <li>・気の合わない友だちがくっついてきて, いやだ。</li> <li>・友だちがぼくをコキ使う。</li> <li>・物をかくすいたずらをしている人がいる。</li> <li>・その他</li> </ul>

#### 4 実践の考察

##### 1) 活動や役割について

有志児童ピア・サポート活動は, 6年生女子7名男子2名, 5年生女子6名(12月現在)計15名である。毎週木曜日の昼休みに設定しているが, 学校行事等と重なると, 予備日として火曜日を設定していても, 月に1・2回の活動となり, 定期的に活動できない現状にある。また, 活動時間が昼休みの20~25分と短いことから, 落ち着いて活動ができないことやピア・サポートのメンバー全員が揃ってトレーニングを積み重ねていくことが十分にできていないことなどの課題があげられる。

担当者の役割について, ピア・サポート活動発足当初は, 教育相談員(大学院生ピア・サポート研究生)

が活動の大半を担っていたが、今現在は、教育相談員の配置はない。そのため、養護教諭が活動のコーディネーター役で大半を担っているが、昼休みの保健室来室児童の応急処置等が入ることがあり、落ち着いて活動に望めないことがある。また、ピア・サポート育成トレーニングに関して指導できる専門の担当がスクールカウンセラーのみであるため、今後、ピア・サポート担当者は、トレーニングの指導者となれるようにスキルを身につけないといけないと考える。

## 2) 相談箱に投函された相談内容について

相談箱に投函された紙上相談は、筆者が継承してからの過去2年間で、総数が70件であった。そのうち6月には20件(28,5%)、9月には19件(27,1%)であり、この2ヶ月で半数以上を占めていた。理由として、6月は、新学期のクラス替えをしたクラスメートにも慣れてくる時期であり、悩み事も増えてくるのではないかとと思われる。また、9月は、夏休みが明け、家庭生活から、学校生活へ切り替えの時期であり、このような環境の変化が心身に影響してくるのではないかとと思われる。

学年ごとの相談件数をみると、2009年度は、全般的に各学年の相談がみられたが、2010年度は85.7%が中学年であった。中学年に関しては、相談の内容も簡潔に書ける学年であり、身近な親や担任、友だちにも相談できない「ちょっとした相談」を気軽にできる学年であると推測される。また、低学年では、発達段階において紙上相談に対する受容度が低いこと、また、高学年になると友だちとの関わり方も身につくようになり、また、自分で解決したり、友だちに相談したりできるスキルがつく児童が多くなるため相談が少なくなるのではないかとと思われる。また、例年、相談者は大半が女子であることがわかってきた。

## 3) 相談者の効用

実際に相談した児童のインタビューでは、メンバーから準備された多様な回答から「こんな考え方があるんだな」と自分にできそうな解決方法が見つかったり、自分の相談に、C-フレンズの人が答えてくれるという満足感が得られた等の感想があった。また、年間を通して、紙上相談があることから、本校の児童にとって、相談の一つの窓口になっていると思われる。しかし、ピア・サポート活動をしていく上で、相談に応じることができない内容もあり、100%の回答が返せなかった点は改善をしていかなければならない。これは、システム上、紙上回答で取り扱えない相談内容もあるからである。保護者からのインタビューでは、「うちの子もちょうど、似たような内容で困っていたので、助かった」という声を直接聞くことがあった。今後、ピア・サポート実践の評価の指標として、全児童や保護者、教師対象の調査をしていく必要があると思われる。

相談を投函されてから、相談回答まで、最短で1週間を要する。この活動の性質上やむを得ない事を、相談用紙等を利用して、相談利用児童に周知していく必要がある。

## 4) 有志児童の動機と変容

この活動は、昼休みの時間を使ってボランティアで活動している。有志児童に紙上相談ピア・サポート活動をしてみたいと思った動機を尋ねると、学校内に掲示をしてあるポスターや相談回答、「ちいさな相談」の便りを読んでやってみたいと思った好奇心のある児童がメンバーになっている。また、「人の悩みを解決してあげたい」、「人を助ける役目をやってみたい」、「ピア・サポートのメンバーで相談を解決してあげたい」、「みんなの悩みが少しでも少なくて欲しい」等の思いを持ち活動している。人の役に立ちたい思いが、ボランティア活動として成り立っていると思われる。また、「紙上相談ピア・サポート活動を通して自分の考えや行動が変わってきていますか？」の問いに15名中11名が「はい」と回答しており自分の成長とい

った変容に気づいている。例えば、「相手を大切にできるようになり、友だちが増えた」、「友だちの相談をよく考えて答えるようになった」、「性格が穏やかになった」、「人を助ける勇気がついた」、「人の気持ちを考えて行動するようになった」、「人のいやがることをしなくなった」等、個々の成長が示されている。

共通のピア・サポートをしたい有志が集まる部屋は、教室とはまた異なった種の空間であり、素の児童の姿がみることができる場でもある。

(有志児童がピア・サポート活動をはじめようと思った動機)

- ・学校内に掲示をしてあるポスターや相談回答、「ちいさな相談」の便りを読んでやってみたい。
- ・人の悩みを解決してあげたい。
- ・人を助ける役目をやってみたい。
- ・ピア・サポートのメンバーで相談を解決してあげたい。
- ・みんなの悩みが少しでも少なくなっしてほしい。等

(ピア・サポート活動を通して有志児童が成長した点)

- ・相手を大切にできるようになり、友だちが増えた。
- ・友だちの相談をよく考えて答えるようになった。
- ・自分の性格が穏やかになった。
- ・人を助ける勇気がついた。
- ・人の気持ちを考えて行動するようになった。
- ・人のいやがることをしなくなった。
- ・人にどんな嫌なことをいわれても、気にしないようになった。強くなった。
- ・友だちに相談されたら、アドバイスができるようになった。
- ・友だちの相談を真剣に聞いて、考えるようになった。
- ・以前は、友だちの悩みは自分には関係ないと思っていたけど、今は友だちの悩みをきちんと聞くようになった。等

## 5 課題

- ピア・サポート活動が、ゆっくり話し合えるように時間帯の変更をしていかなければならない。また、有志児童ピア・サポーターに、ピア・サポート育成トレーニングができる充実した研修会を設ける必要があると思われる。
- 有志児童ピア・サポーターのメンバー構成を検討していく必要がある。相談を学校全体のこととしてとらえ、児童運営委員会のメンバーが中心となり活動を展開していくことが、学校の雰囲気づくりにつながると思われる。
- ピア・サポートを専門的に指導できる人材の確保が必要であると思われる。担当職員の異動等により、ピア・サポート活動の継続が困難である。これは、全国の小・中学校においてもピア・サポート活動が継続されない理由の一つであると考えられる。本校に隣接する中学校でも、本年度、担当職員の異動により活動が困難となり活動休止中である。しかし、いじめ認知の件数が多い学年は中学1年生であり、小学校以上に、中学校においてピア・サポート活動の効用が期待できる。今後、養護教諭が専門的に行える相談活動スキルをピア・サポート活動に生かし、継続できるようになるとよいのではないかとと思う。

## 6 おわりに

本校で行う紙上相談ピア・サポート活動は、「相談したいけど、だれにも相談できない」といった児童の発信の一つ手段になる。しかし、鳥取県内で紙上相談ピア・サポートを本格的に取り入れている学校はなく、また、全国でも、ピア・サポート活動を継続させているところは少ない。そこで、本校では、今後も本校のスタイルにあったピア・サポート活動を継続し、温かい学び場の風土づくりに貢献できればと考える。

米嶋美智子（鳥取大学附属小学校）

小林勝年（鳥取大学教育センター）

### 〈引用・参考文献〉

- 戸田有一（2001）学校におけるピア・サポート実践の展開と課題—紙上相談とオンライン・ピア・サポート・ネット— 「鳥取大学教育地域科学部紀要」（教育・人文科学）第2巻 第2号
- 戸田有一，西海巡，吉田ひろみ（2003）小学校における紙上相談ピア・サポート実践の評価 新潟大学教育人間科学部付属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第2号
- 池島徳大（2003）イギリスにおけるいじめ問題への取り組みとピア・サポート 第2回日本ピア・サポート学会研究大会発表資料
- 池島徳大（2010）集団の共同性意識の再構築とピア・サポート 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」
- トレバー・コール，森川澄男（2000）ピア・サポート実践マニュアル 川島書店
- 滝 充（2000）ピア・サポートではじめる学校づくり 小学校編 金子書房
- 中野武房，森川澄男（2009）現代のエスプリ ピア・サポート ぎょうせい
- 森川澄男，菱田準子（2002）すぐに始められる ピア・サポート指導案&シート集 ほんの森出版
- 河田史宝（2000）生徒保健委員会活動におけるピア・カウンセリングの実際—紙上相談を中心に— 第48回石川県学校保健研究大会紀要 20-21
- 西海巡，吉田ひろみ，太田三葉子（2003）ピア・サポート・メンタルフレンド・教育相談の統合的実践—教育地域学部附属小中学校と教育総合センターの連携のもと—鳥取大学教育地域学科学部教育実践総合センター研究年報第12号
- 川知恵子（2009）生徒同士の人間関係形成能力を高めるピア・サポートプログラムの開発に向けての予備研究 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」1, 115-122
- 西山久子 山本力（2002）実践的ピアサポート仲間支援活動の背景と動向—ピアサポート/仲間支援活動の起源から現在まで— 岡山大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 第2巻
- 法務省・全国人権擁護委員連合会（2008）「いじめ」しない させない 見逃さない
- 鳥取大学附属小・中学校（2009）ピア・サポート活動10周年記念誌